

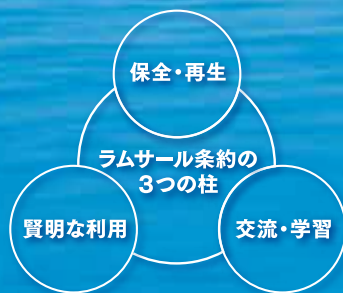
ラムサールってなんだ!?



涸沼川・那珂川を経て太平洋に注ぐ。
満潮時には川が逆流し涸沼に海水が流れ込むため
淡水と海水が混ざり汽水となる。

contents

- 02 ラムサールってなんだ!?
鳥も植物も昆虫も魚も、もちろんヒトも集まってくる場所
- 04 涸沼の生きものと人びと
やっぱり涸沼が好き、な動植物と先人たち
- 06 涸沼水鳥・湿地センターってこんなところ
もっと涸沼を知りたくなったらここに行くべし
- 08 3つの市町に囲まれた涸沼
涸沼周辺をぐるっとご紹介! しじみラーメンもあるよ
- 10 涸沼でリトリート ~涸沼で過ごすアクティブな休日~
涸沼周辺のキャンプ場をご紹介
- 12 涸沼で今日は、なにしよう。
釣り、サイクリング、ウォータースポーツetc. 存分に遊ぼう!
- 14 ぼくのとっておき3市町グルメ
茨城県・銚田市・大洗町のおいしいお店をご紹介
- 20 涸沼周辺の旬とイベント
今だけじゃない、いつもおいしい、楽しい
- 22 涸沼を持って帰ろう。
涸沼や3市町の自慢のお土産をご紹介
- 24 観光スポット・宿泊ガイド
遊び疲れたら1泊して、翌日は観光がいいね!
- 26 涸沼周辺マップ・アクセス



ラムサール条約とは
ラムサール条約の正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」。1971年2月、イランの都市ラムサールで採択されたため「ラムサール条約」と呼ばれている。自然資源の保全と持続可能な利用に関する地球規模の国際条約で、現在172カ国が締結国として協力し、生きものにとって大切な湿地の自然を守り、賢明に利用することを目指している。

ラムサール条約登録湿地「涸沼」
茨城県の太平洋沿岸、大洗海岸から5kmほど内陸にある涸沼は、周囲約23.9km、面積約935haの湖。満潮時に太平洋から那珂川、涸沼川を介し、海水が逆流する汽水湖で、流域には多くの動植物が生息している。水鳥の越冬地で野鳥の宝庫として知られ、絶滅の恐れがあるオオワシが長年飛来していたほか、オオセリなどの希少種が生息し、スズガモが東アジア地域個体の1%を超える2500羽以上飛来していることから、涸沼は生きものにとってかけがえない場所として国際的に認められ、2015年5月にラムサール条約登録湿地となった。

つまりは「いきもの」も「ヒト」も居心地がいいってこと。
ここ来ると時間がのんびりと流れていることに気づく。湖面がキラキラしてきれいだから近づいてみる。すると水鳥たちがいつせいに羽ばたく。でも少し離れたところにまたすぐに羽を下ろす。
——そうか、水鳥も居心地がいいんだね。
涸沼は茨城県の中央部、茨城県、銚田市、大洗町の3市町に囲まれた湖。湖といってもただの湖じゃない。淡水と海水が混じり合う、関東地方で唯一の汽水湖。渡り鳥に魚、昆虫、植物など、絶滅危惧種を含むたくさんの「いきもの」の楽園だ。
あの徳川齊昭が認めた広浦から見る月、親沢公園にダイヤモンド筑波を撮りに集うカメラマン。大昔から「いきもの」も「ヒト」も涸沼に引き寄せられてやってくる。